



しょうじま たかひろ  
庄嶋孝広さん

# KEY PERSON

## 協働の推進に向けた「つなぎ役」の養成を



今号から、各方面で活躍する「まちづくりのKEY PERSON」に、地域活性化の視点をお聞きします。今回は、「地縁団体の活用」という新たな視点で、民間と公務の両面で協働を推進する庄嶋孝広さんです。庄嶋さんには、7月16・17日に当センターが開催する研修No.1「住民と行政の協働によるまちづくりを学ぶ」の講師をお願いしています。

### 従前からある地縁団体の役割に注目

協働のまちづくりが言われ始めた当初、主なねらいは「行政とNPO等との協働による公共サービスの創出」でした。しかし、昨今では、「地縁団体、NPO、事業者、行政等による地域コミュニティの再構築」に変化してきています。

つまり、従前からある町内会・自治会、青少年健全育成団体、PTA、商店会などの地縁団体の役割に注目して、彼らとNPO法人、行政との協働によって、地域のコミュニティを再構築していく、というものです。

例えば、PTAには、「ママさんバレー」や「コーラス」「読み聞かせグループ」「外国語ボランティア」などのサークル活動がありますが、こうした小さなコミュニティがたくさんある地域は豊かです。こうした小さなコミュニティを介して地域に関わる人が増え、地域に活気が出ます。

最近、協働の考え方が広まる中で、地縁団体の役割がより積極的なものに据えなおされ、町内会や自治会からの研修依頼、地域団体が協働して地域コミュニティを再構築する協議会を、ファシリテーターとして支援する依頼も増えています。

彼らが長年地域の中で果たしてきた役割は大きいものがあります。行政も、そうした地縁団体を大事にしていきたい。

防災で言われる「自助・共助・公助」のバランスは、まちづくり全体で大事です。「共助」という意味では、これからは、地縁団体を基盤に新しい人材を取り込み、専門性を持つNPO等との連携・協働を推進していく必要があるだろうと思います。

### 地域の人材を見つけるためには

住民が、地域に関わりやすいタイミングは「子ども期」「子育て期」「シニア期」の3つがあります。現実には、リタイア後に、まちづくりに関わり出す人が多いため、地縁団体や、そこで活動する人材とのつながりが弱い。

なるべく、「子育て期」のタイミングで、PTAや「おやじの会」などの「子縁」を活かして、「地縁」に関わってほしいと思います。

地域には、様々なスキルを持つ人材がいます。そうした人材を見つけるために、行政は、各種の団体に携わっている人々が、お互いを知り合うことができる機会を設けてほしいと思います。

通常、役所が行う人材育成の講座は「縦割り」になっています。PTAは教育委員会、NPOは協働推進課、観光ボランティアは商工観光課など、それぞれが対象としている団体の人材育成講座を開きます。

そうではなく、横断的に、町内会・自治会、民生委員、保護司、青少年健全育成団体、PTA、商店会、NPOなどに携わる人々が一緒に参加して、自分とは違うタイプの活動を知ってもらい、様々な人材がいることを知り、そこから協力関係を築いていきます。

最初から「地域課題の解決」というように構えると難しくなります。課

題が浮上した時に、「あの活動をしている団体の〇〇さんと〇〇さん」が持つスキルをつないで活用する。そうすると、「協働」がより具体的にになります。

### 地域に求められている「つなぎ役」

今必要なのは、地縁団体やNPO、事業者などの中に、そうした「つなぎ役」を増やすということだと思えます。

私は、非常勤職員として勤務する東京都大田区で、この「つなぎ役」を養成する「区民活動コーディネーター養成講座」を行っています。

地縁系のリーダー層は「つなぎ役」の意識を持って、「11ターン」などの新しい人材が地域活動に入りやすい工夫をしてほしいと思います。

今、地縁系とNPO系の人材が分断されている状況があります。まちづくりにおいては、専門的課題に取り組むNPOの存在感が増していますが、彼らもそうした地縁団体を上手に活用してほしいと思います。一般住民の信頼や、行政との関係など「地縁」ブランドの利用価値は大きいものです。ぜひNPO系の人材にも「地縁」に飛び込んでいただきたい。こうした双方向の「つながり」が求められています。

私の役割は、地域に関わりを持っていく人、「つなぎ役」を生み出そうという人を増やすということだと思っています。(談)

### 略歴

昭和49(1974)年、福岡県志摩町(現・糸島市)生まれ。平成9(1997)年、慶応義塾大学経済学部卒業。アンダーセンコンサルティング、特定非営利法人東京ランボを経て、平成18(2006)年市民社会パートナーズを開業。地域コンサルタント、地方公務員を兼業する「民間と公務の二刀流」。PTA会長、NPO法人理事などの地域活動者でもある「チクメン(地区メン)」。雑誌「ブレジデント」に掲載の『07年日本を動かすキーマン』100人図鑑で紹介されている。共著に『市民自治のこれまで・これから』(公職研)